

岐阜県スマート農業推進拠点の整備 について

岐阜県農政部農政課スマート農業推進室

位置図



スマート農業推進拠点計画

モデル温室

- 【モデル温室】（冬春トマト：独立ポット耕栽培システム）
- ・ 複合環境制御システム（温度、湿度、CO2濃度等）
 - ・ 栽培技術の向上に必要な最新技術の導入（光合成量計測機、パットアンドファン）
 - ・ 営農管理システムの導入（栽培管理、労務管理等、スマートウォッチの活用、燃料可視化）
 - ・ ロボットの導入（運搬補助ロボット、収穫ロボット）

【既設】
事務棟

【既設】
作業棟

自動環境制御システム

【既設】
研修ハウス

【新設】 オペレーションセンター

- 【オペレーションセンター】
- ・ 各種スマート農業機器展示（自動運転トラクター、アシストスーツ、ドローン、リモコン式草刈機等）
 - ・ 各種スマート農業技術の体験（自動制御体験、アシストスーツ、追尾型ロボット等）
 - ・ 勉強会、セミナーの開催（農業者、就農希望者、農業高校生、農業大学在校生等）

草刈ロボット

自動給水栓

水田センサー

- 【実演ほ場】
- ・ 各種スマート農業技術実演（自動運転トラクター、ドローン、自動給水栓、リモコン式草刈機等）

スマート農業推進拠点（就農支援センター内（海津市））
オペレーションセンター 外観イメージ

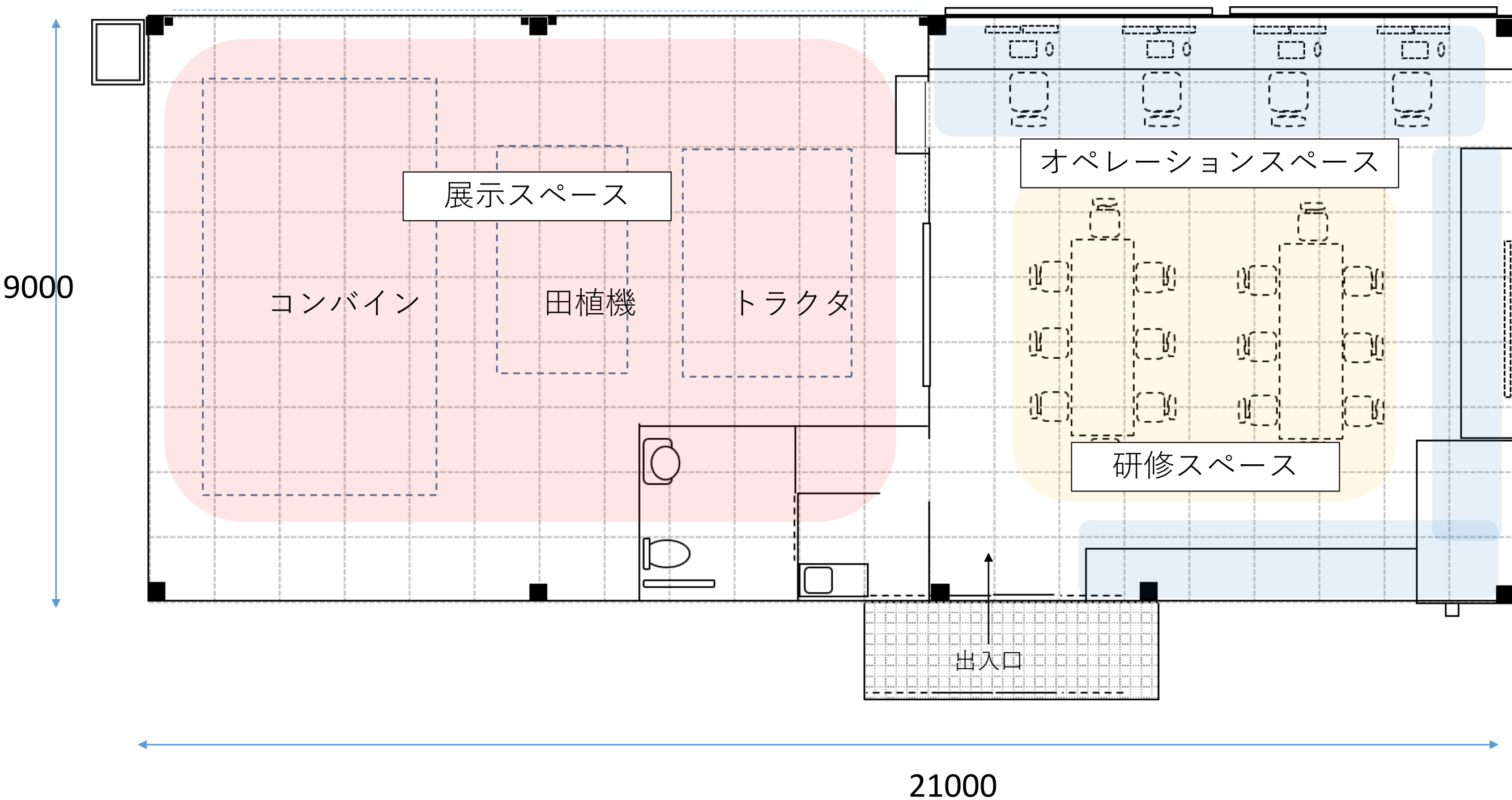
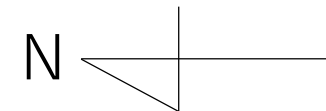
西側立面イメージ



東側立面イメージ



スマート農業推進拠点（就農支援センター内（海津市））
オペレーションセンター 平面図



モデル温室へのスマート農業技術導入計画

導入時期	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
導入技術	<p>プラットフォームの整備</p> <p>○環境制御及び、ビックデータ収集の基盤を整備。</p>	<p>データの蓄積・栽培の高度化</p>			<p>データを活用した栽培技術の実践</p>	
導入技術	<p>○環境制御及び、ビックデータ収集の基盤を整備。</p>	<p>○環境制御の機能強化 ・最適な光合成量の確保 ・高温対策</p> <p>○営農管理の機能強化 ・ICタグの活用 ・燃料残量可視化</p> <p>○ロボットの導入 ・収穫ロボット、運搬補助ロボット</p>	<p>○生育調査のデジタル化</p> <p>○AIを活用した技術の導入 ・病虫害診断技術</p>	<p>○環境制御の機能強化 ・環境条件と連動した自動灌水</p> <p>○ロボットの導入 ・葉かき、芽かきロボット</p>	<p>○AIを活用した技術導入 ・栽培ナビゲーションシステム</p>	
環境制御	<p>複合環境制御システム</p> <p>センサ 温度・湿度・CO2・日射量</p> <p>制御設備 天窓・暖房機・カーテン・循環扇・CO2発生器・灌水・+α機器</p>	<p>実証・栽培データ蓄積</p>				
環境制御		<p>光合成量計測機</p> <p>パットアンドファン</p>				
自動灌水	技術開発			<p>ポット耕灌水自動化システム</p>		
営農管理	<p>クラウド型営農管理システム</p> <p>作業内容の共有</p> <p>栽培履歴管理</p> <p>労務管理・投下資金管理</p>	<p>実証・データ蓄積</p>				
営農管理		<p>スマートウォッチの活用</p> <p>スマートメータとの連携</p>	<p>営農データ蓄積</p>			
生育診断	アナログ計測	技術開発	<p>生育診断カメラ等</p> <p>・生育計測デジタル化</p>	<p>実証・データ蓄積</p>		
AIを活用した技術		<p>必要データの蓄積・AIを用いた分析</p>			<p>栽培ナビゲーションシステム</p>	
AIを活用した技術			<p>病虫害診断技術</p>			
ロボット技術	技術開発	<p>収穫ロボット</p> <p>運搬補助ロボット</p>		<p>葉かき・芽かきロボット</p>		

スマート農業推進拠点活用計画

○実演会・展示会、研修会

実施回数：8回

参集人数：800人（100人／回）

対象者：農業者、農業関係団体、民間企業、行政機関等

○指導者向け技術研修（岐阜県スマート農業推進員・専門員の育成）

実施回数：3回（推進員養成研修：1回、専門員養成研修：2回）

参集人数：100人（推進員養成研修：50人／回、専門員養成研修：25人／回）

対象者：JA営農指導員、農業普及指導員

○農業者向け技術力向上研修

実施回数：3回

参集人数：100人（約30名／回）

対象者：農業者、就農研修生等

○視察対応等

・県内及び他県からの視察（100回）

・就農研修拠点研修生、あすなろ農業塾生視察（20回）

・農業大学校・国際園芸アカデミーカリキュラム（4回）

・農業高校授業（7回）